

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.66 平成19年10月15日発行

救急員フォローアップ講習を終えて ～多くの学びと出会い～

10月13日(土)支部庁舎において「救急員フォローアップ講習」が開催されました。この講習は「講習」と名がつくものの、赤十字講習規則にはない講習ですので、救急員の知識と技術を維持・向上するため、多くのスキルが紹介されます。既に今年で5回目の開催となり、毎年多くの学びと出会いがあります。ボランティアは人と人との関わりです。多くの出会いによって、今年も参加者27人にボランティアの輪が広がりはじめました。

今回も、救急員としての知識と技術の確認をしながら、実際の救急現場を想定し、教本には紹介されていない知識と技術も多数紹介されました。救急員養成講習では語りきれないこと、救急員として知っていて欲しいスキル・・・5時間の内容はとても濃く、参加者もスタッフも楽しく有意義な一日を過ごしました。参加した救急員の皆さんからは、次のような声が聞かれています。

「スタッフ(奉仕団)の方々が丁寧にかつ具体的に解説してくれて、とても分かり易かった、来年も是非受講したい。実際の症例を聞くことが出来て、応急手当の重要性が実感できた。車の中からの救出についてとても参考になった。頸椎損傷の話をもう少し詳しく聞きたかった。今後は、もう少しフォローアップの回数を増やして欲しい。」
(赤十字事業部会)

「大道芸ワールドカップ in 静岡2007」について

本団の社会奉仕の中心と位置づけ、また、平時の救護活動である「大道芸ワールドカップ in 静岡2007」の救護ボランティアが、11月1・2・3・4日と間近に迫りました。今年は、協力団体へと昇格したこともあり、指定のイベントジャンパーではなく、本団の統一したTシャツとアポロキャップで活動できるようになりました。既にTシャツのロゴも決まり、発注を済ませました。もちろん大道芸当日には間に合いますからご心配なく。このことにより、今年は、より機敏さが増した「即時即応体制」が確保できることとなります。

今年の協力者は、延べ40人を越え、既に協力者説明会を済ませました。看護奉仕団との協力も万全となり、来場者・関係者の安全確保に努める体制が確立しました。本団が救護を担当してからは、大きな事故は発生していません。今年も事故のない楽しい大道芸ワールドカップを目指していきます。

協力できなかった団員の皆さん、もし会場の近くまで来ることがあれば、3ヶ所の救護所には必ず本団の団員がいますので、激励をよろしくお願いします。
(イベント救護部会)

今月の眼(見た)、耳(聴いた)！「奉仕活動は誠実さが基本です」

先月号では、本団の目的と赤十字奉仕団員の奉仕活動について紹介をしました。今月号は、奉仕団員としての「誠実さ」を中心に話を進めます。私達の活動は営利を目的としていませんが、奉仕活動により「得るもの」はたくさんあります。ボランティア同士のネットワーク、活動の喜び、自らを磨くこと、気づき・・・まだまだあります。これは、ボランティア活動をすることによって、その成果として得るものであって、初めから得ることを目的としている訳ではありません。

最初から何かを得たいと思うのもいいのかも知れませんが、その結果得るものがなかった時は、ボランティアが嫌になってしまうのかも？手に入れるものは多い方がいいに決まっていますが、あまり欲張り過ぎると・・・人を傷つけたり、信用を失ったり、その活動は長続きしません。赤十字職・団員として大切なことは「誠実な」心であり、信用されることでもあります。
(事務局)